

月旅行の一番乗りに関志をもやしている米ソはもちろん、その他の先進国も申し合せたように科学技術の振興にやっきとなり、惜しみなく国費を投じ、科学技術の教育に、研究に、開発に、戦前と比較にならぬ熱の入れたをしている。わが国においては、戦後歴代の内閣が、平和にして豊かな文化国家を目指すといひながら、その基盤である科学技術の振興に対し、冷淡というか無理解というか、これに対する国の投資は列国に比べてまことに少ない。一般に現代の政治家は圧力団体には弱い、票にならぬ相手には強いというかまことに冷たい。それのみか、科学技術の振興をスローガンとして選挙を戦えば必ず落選するというジンクスさえある。

しかし、私はここで政治家を責めるのが本意ではない。むしろわれわれ科学技術者こそ大いに反省しなければならぬと思う。第一、科学技術行政に関する限り、科学技術が政治をリードする、あるいは科学技術者が政治家をリードしなければならぬ。大臣が叱咤激励したので道路が予定工期より早くできた、同じ大臣の思いつきで東京の水ききが救われたではいけない。しかし政治をリードするためには、科学技術者は政治家に対し、懇切丁寧で説明してその理解を得るに努めなければならぬ。彼らが真に理解し納得するまで辛抱強くこの努力を続けなければならぬが、その前にもっと重要なことは、彼らをしてわれわれ科学技術者を信頼せしめ、われわれの科学技術を尊重せしむることである。そしてそれはわれわれの正しい行動と、正しい科学技術の実践を通じてのみ可能である。

ここでわが土木技術界に目を向けて見よう。

東海道新幹線の盛土ののり面が豪雨のたびごとに崩れて、列車を止めたり遅らせたりして、世の批難を買い、乗客に不安を与え、国鉄土木技術の評価を下げた観のあるのはまことに遺憾である（さらにこれが補修工事にひどい不正が暴露して、世人を驚かせるというおまけまで付いた）。

元来国鉄の土木技術は決して低いものでないどころか、わが国最高の技術と陣容を擁していることは自他ともに許すところである。立派な研究機関も持ち、研究者も技術者も真剣に勉強しておる。にもかかわらずこんな事態を起こした原因については、担当者にそれ相当の弁解があると思う。これは私の単なる推測であるが、たとえば新幹線全体の工事予算が、途中で世の常識を絶するほどの大幅な増額を要したために、比較的軽く見られて土工には十分な予算が付かなかつた。さらにオリンピッ

クに間に合わせるという、あらずもがなの理由で工期が定められ、その工期厳守を強要されて、いきおい突貫工事をやらざるを得なかつた等々……。

果してそうなら一応は同情するが、一步退いて篤と考えて見たい。少なくとも今後工事担当技術者は、かかる場合でも、必要最小限度の予算と最小限度の工期は、断固としてこれを要求し、確保してよい仕事をして貰いたい。結局これが世間をして、政治家をして、土木技術を信頼せしめ、尊敬せしめる唯一の途である。少なくとも、山陽新幹線は一切盛土を廃して全線高架にするなど技術と経済を無視した議論が政治家の間に起こらぬようにしたいものだ。

また最近新聞を賑わした事件は、国土開発縦貫自動車道路の九州南端におけるロケーション問題がある。新聞が真相を報じているかどうかは知らぬが、その記事から読者の受けた印象は、技術が圧力に屈したということであり、土木技術の権威のために、担当技術者の名誉のためにはなほ遺憾を感じたのは私ひとりではなからう。

元来“我田引水”ならぬ“我渠引道(?)”は政治家の常である。しかしながら政治家の要請が無理である場合には、懇切にその非なるゆえんを説き、技術上の信念に基づいて断固これを退けなければならぬ。行政官としてつらいことであろうが、しかしこれが技術者の責任であり、納税者に対する義務であり、しかも技術者が世の信頼を得る途でもあることを忘れてはならぬ。5 年に 4 兆円を投ずるといふ大計画に対しては、九牛の一毛に過ぎぬといつては済まされない。将来これを先例とされるおそれもあり、多年にわたり政治圧力に抗して奮闘してきた当局の苦心と栄誉を傷つけることになるからである。

ただし、新聞が常に誤りなき報道をするとはかぎらない。またこの問題に対する当局のしかるべき弁明があるかも知れぬ。私はこの新聞記事が誤報であることを希うと同時に、もしそうならば、われわれは国民に正しい認識を与えるよう常に努力しなければならぬと痛感する。

道路に関して序に一言したい。東京都内の道路はオリンピックを契機として段々とよくなっている。また隣接県の東京に向う道路もよくなった。しかるにこの両者の接続部分が文字通りネックになって、夕方のラッシュ時など、都内に入るだけのために二時間待たされることは珍らしくないようだ。このため道路全線の機能がいちじるしく減殺されておる。これは一体どうしたことか。だれの責任か。常に人と物との潮流を調べ、将来の発展を推測し、これに対する適切な計画を立て、その実施を推進する責任はどこにあるか。技術が政治をリードして貰いたい見本がここにもあった。

\* 本会第 45 代会長 名誉会員 工博